

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	名古屋生活総合支援株式会社 児童デイサービス おてて		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者様の満足度	重症心身障害児のお子様が主に通所いただく施設であり、様々な疾病や特性をお持ちのお子様がおみえになります。個々の特性に応じた対応や、急な体調の変化に気が付ける様、日々の健康観察・ご家族様や関係機関との情報共有を行い安心して過ごしていただけるよう心掛けております。	今後ご家族様や関係機関との情報共有を継続し、ご利用者様のニーズに合わせた支援の提供に努めます。安全に配慮し、安心して通所いただける環境を継続することでご利用者様・ご家族様にご満足いただけるよう信頼関係を作っていきたくと考えております。
2	個別療育・集団療育・運動療育など支援プログラムの充実	様々な資格を保持した職員（PT・OT・ST・保育士等）が在籍し、情報交換を行いながら個々の特性に応じリハビリや個別療育・集団療育に取り組むことができるよう支援プログラムを立案しています。こども様の状態に応じ、活動への参加を促す事により楽しみを持つ事ができるよう心掛けています。	専門職介入のもと、様々な活動に取り組み楽しみを持ちながら通所できる環境作りを継続します。保有する感覚・視覚・聴覚・嗅覚などを活用したリハビリや支援プログラムへ参加することでコミュニケーションスキルの習得や社会性の芽生えを促し、心身の成長発達に繋げることができるよう支援させていただきます。
3	安心して過ごせる生活空間の確保	日々の丁寧な清掃に加え、空調管理・加湿器の使用などを行うことで清潔で心地よく過ごす事のできる環境作りを心掛けています。個々の特性に応じ、活動できる空間作りを意識することによりお子様が安楽に過ごせるように努めています。	今後も日々の清掃活動や利用者様の特性に応じた居場所の確保、情報伝達への配慮を継続します。清潔で安心して活動できる生活空間を確保し、こども様の特性や成長に合わせた居場所をご提供できるように努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民や保育園・こども園・幼稚園・センターなど外部との交流	保育園やこども園、発達センターなど外部との交流については通所との併用にてご利用いただいている利用児様の園への訪問や情報交換にとどまっています。地域行事への参加は他事業所様に招待いただいたイベントへ参加させていただくにとどまっております。開催スペースの関係もあり当事業所での積極的な開催はできておりません。	感染防止対策を行いながら、利用児様の通園している園にとどまらず積極的な地域交流の場を設けることができるよう取り組んでいきたいと考えております。
2	非常時等の対応に関する周知	事業所として名古屋市より福祉避難所へ指定されており、非常時を想定したマニュアルの策定や備蓄・災害時に必要な物品の準備、定期的な訓練を行い利用者様の安全確保に努めています。情報開示や周知、伝達が不十分であったため、保護者様にご理解いただけていない部分があったかと思われます。	会報やSNS等を活用しながら定期的な情報公開・施設内掲示等を実施し、非常時の対応についてご理解いただけるように努めていきたいと考えております。
3	ご家族様が参加できる研修会や情報提供の機会	利用者様により疾病・発達についてのお悩みが異なるため、現状は個別に相談いただいた内容に対する対応が主となっています。年に数回、保護者会の開催やご家族様が参加できるイベントを行い、保護者様・きょうだい間で交流を持てる機会を設けています。	利用者様の個々の相談内容にとどまらず、幅広い情報提供やお気軽に相談・交流を持つことができる環境を整え安心して通所していただけるように努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		名古屋生活総合支援株式会社 児童デイサービスおてて		公表日		令和 8 年 2 月 15 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17	3	その日の利用状況により狭く感じることがあるが個々の活動スペースを確保できるようにスタッフ間で相談しながら支援しています。	利用者様の利用状況や健康状態により、スタッフ間で共有しながら臨機応変なゾーニングを行い、安全確保に努めます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	8	人員基準を上回る職員を配置しているが、その日の利用者状況（重度ケア児様の利用が多いなど）により不十分に感じる時もある。	今後も利用児様が安全に過ごすことができるような人員配置に努めていきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20	0			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18	2	利用児様が清潔で心地よく過ごせるよう日々、清掃活動を行っている。	日々の清掃活動を実施し、利用児様が心地よく過ごせるような環境整備を継続していきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	9		利用児様の状態に応じ、使用できる場所の確保に努めていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	毎年、保護者様よりご意見をいただき意向確認を行っています。	今後も保護者様よりいただいたご意見をもとにより良い支援に繋げることができるように努めていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	7	定期的にミーティングを行い、職員の意見の把握に努めている	職員により勤務日数や勤務時間が異なるため、意見交換やミーティングを行う時間の確保に努めていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	7	当事業所では第三者による評価は実施しておりません。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	6	消防所へ依頼し、救急時の対応についての研修を事業所で実施しました。毎月、事業所内で研修を行い不参加のスタッフは資料にて観覧できるようになっている。	勤務日数や開催時間により参加できない職員もいるため、開催方法・伝達方法について検討していきます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	19	1	支援プログラムの作成を行い、インターネットサイトと事業所ホームページに掲載しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	1	利用者様の特性に応じ児童発達支援計画の作成を行っています。個々の特性に応じた支援計画を作成できるよう、面談や聞き取り、アセスメントツールを活用しニーズの把握に努めています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	2	様々な職種の見解を取り入れることができるよう、担当者会議や日々の支援の中で情報交換を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	18	2	利用者様へ計画に沿った支援が提供できる様に児童発達支援計画の共有を行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	4			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16	4	様々な視点を取り入れることができる様に職種にとらわれず、活動プログラムの立案を行っています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	2	季節楽しむことができるイベントや製作、戸外活動などを取り入れ支援プログラムが固定化しないよう工夫しています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	18	2	集団・個別活動を組み合わせ児童発達支援計画を作成し、楽しみを持ちながら通所できるように支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	5	毎朝、支援開始前に必ずミーティングを行っており、朝のミーティングに参加できない職員が情報共有できるようなホワイトボード・情報共有アプリなどのツールを使用しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	9	職員間で支援終了後に振り返りの時間を作っていますが、勤務時間が異なるため参加できない職員がいる。参加できない職員へも情報共有ができるよう情報共有アプリを使用しています。	今後も職員間でのミーティングに加え、職員間で情報共有に努めています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	1	定期的なモニタリングを行い、こども様の状態やライフサイクルの変化に合わせて適切な見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	15	5	現在は積極的な関係構築は築けていません。今後の課題としていきます。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	10	地域の他事業所様に招待いただいたイベントへ参加させていただきました。	保育所との交流については通所と併用にて通園している利用児童と職員のみにとどまっているため今後の課題として検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	18	2			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	20	0		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20	0		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	1	個人情報は鍵付きの棚に保管しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	9	事業所への招待についてはご家族様や関係機関の方を主に実施するにとまっています。	地域住民の皆様と交流を持ち、地域に開かれた事業運営ができるよう検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	18	2	各マニュアルの策定を行い、定期的に訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	4	BCPの策定を行い定期的な訓練を実施しています。福祉避難事業所に認定されており、災害時に備えています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	20	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	3	安全計画を策定し研修や訓練を実施しています。	職員により勤務日や勤務時間が異なり、全職員での訓練が難しいため、伝達講習などを取り入れながら安全に支援できる環境を継続していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	20	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	1	ヒヤリハット事案の共有を行い、再発防止案について意見を出し合っています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	19	1	毎月、虐待についての研修を行い虐待防止に努めています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	0	毎月の会議にて事業所としての対応を確認を行ったうえで児童発達支援計画に記載し、ご説明の上ご同意・署名をいただいています。		